

学童保育所、帰りの安全策次々 時間延長や送迎も

朝日 2006年07月04日 14時26分

子どもを狙った事件が頻発する中、放課後に共働き家庭などの小学生を預かる学童保育所で、親が直接迎えに来られるように開設時間を延長したり、車での送迎を始めたりする施設が増えている。「一人で帰宅させるのは危険」という親の要望に応えた格好だ。指導員の勤務シフトを工夫するなどして対応。子どもが一人での時間を少しでも減らす模索が続く。

東京都八王子市。65カ所の学童保育所のうち、公設民営の54カ所は今年2月に午後6時までだった開設時間を30分延長、4月からは7時半までにした。「一人で留守番させたくない」など、保護者の要望が高まったためだ。

120人が在籍する市立台町学童保育所では、延長保育の希望登録者は28人。小1の男児を預ける会社員の母親は、ほぼ毎日午後7時ごろ迎えに行く。「延長がなければ別の仕事を探そうと思っていたので助かっています」。54カ所の在籍児童数は3517人。4、5月分だけで朝と夜の延長保育の利用者は延べ3712人に及んだ。

保育料は月額7千円に加え、1時間延長で3千円上乗せた。

神奈川県逗子市の公設民営の3カ所の学童保育も、子どもの安全対策のため、4月から開設時間を午後6時から1時間延長して7時までとした。

保育所側が家まで送ろう、という動きもある。

7月下旬にオープンする埼玉県越谷市の民間の学童クラブBOP(ポップ)越谷では送迎バスで、希望者には小学校への迎えと、自宅付近までの送迎をする。送迎料は1カ月2500円。開設は午後7時まで。同県八潮市の公設民営「つくしんぼ学童クラブ」も04年秋から、保護者の迎えが間に合わない場合は、スタッフが児童を車で家まで送っている。送迎料は1回200円。月に10件ほどの利用があるという。

学童保育の開設時間は次第に延びており、厚生労働省の01年調査では、午後6時過ぎまで開設しているのは15.9%しかなかったが、05年調査では29.3%に増加した。

全国学童保育連絡協議会の真田祐事務局次長は「安全対策で時間延長をすることは増えているが、労働時間や給与など指導員にしわ寄せが出ているケースもある」と指摘する。